

## 令和3年度第1回朝日町総合教育会議 議事録

日 時 : 令和3年10月13日(金) 午後3時00分～午後4時10分

会 場 : 役場3階全員協議会室

出席者 : 朝日町長 笹原靖直  
教育委員 小澤政憲(教育長職務代理者)、河村智明、コケシュ知子、  
石坂博信  
教育長 木村博明  
オブザーバー さみさと小学校長 四杉昭康、  
あさひ野小学校長 水島祐司、  
朝日中学校長 梅澤健一  
事務局 (町長部局)  
総務政策課長 谷口保則、  
住民・子ども課長 水野真也  
(教育委員会事務局)  
事務局長 小杉嘉博、生涯学習係長 高瀬博樹、  
スポーツ係長 濱田真由美、 学校教育係長 坂藤左恵子  
教育センター指導主事 上田勝

傍聴者 : 2名

- 会議次第 : 1 開 会  
2 町長あいさつ  
3 協議事項  
(1) 朝日町型保小中一貫教育について  
(2) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動本部の設立について  
(3) その他  
4 閉 会

小杉局長： ご案内の時間になりましたので、只今から令和3年度第1回総合教育会議を開催いたします。はじめに、朝日町長笹原靖直がごあいさつを申し上げます。

笹原町長： 皆様、こんにちは。本日は第1回朝日町総合教育会議を開催いたしましたところ、コロナ禍の大変な時ではありますがご出席いただきまして誠にありがとうございます。

振り返りますと、昨年4月5月に教育長と、タブレットの導入やデジタル教科書をどのように取り組むかということについて2カ月間、教育委員会等関係各所と詰めておりました。タブレットを生かした学習、あるいはデジタル教科書に取り組ませていただいたのも、やはり、教職員あるいは関係各位の本当にお力添えがあつたことだと思っています。

最近、色々とところで教育の大事さをつくづくと感じます。ある方が言うように、教育というのは人間性や、道徳の時間、やはり人間形成にとって生きる力、学問のみならず様々な形の教育というのは、大事にしていかなければならないと思っています。木村教育長は、常日頃から学びの場を止めるなど、止めたらだめだという強い意志の下、このコロナ禍の中でも逆にピンチをチャンスにしてきたのが、朝日町であると思っています。今日は教育委員の皆様や、小中学校の校長先生方にもおいでいただいています。そういった様々な学びの場を止めることなく、そして朝日町の将来を担う子ども達のためにより有意義な今日の会議でありますことをお願いしたいと思っています。直近、全国的にも県内でもコロナの感染者が激減はしていますが、まだまだ予断を許さない状況であります。そういったことも視野に入れ今後のあらゆることを想定し、学びの場を止めないように皆さんと共に努力してまいりたいと思っています。

今日はどうぞ有意義な会議となりますこと、忌憚のないご意見を賜りますことをお願いいたしまして冒頭のあいさつとさせていただきます。皆さんよろしくお願いたします。

小杉局長： それでは、会議の進行につきましては総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、笹原町長にお願いしたいと思っております。よろしくお願いたします。

笹原町長： それでは、次第の3番、協議事項についてであります。(1)の「朝日町型保小中一貫教育」について、事務局から説明をお願いいたします。

上田指導主事：「朝日町型保小中一貫教育」実施にあたり、何を一貫させるかを明らかにする必要があります。朝日町における保小中一貫教育では、大きく2つのことについて一貫させることとしました。その1つは、保一小、小一中の接続方法であり、もう1つは各学校で学ぶべき内容である教育課程、この2つを一貫させることとしました。A3版の学びのハンドブックをご覧ください。これは朝日町の保育所、小学校、中学校が協力して作成した、保小中で一貫させるべき事柄を網羅したものです。1ページ、2ページは、朝日町型保小中一貫教育の全体構想図を示したリーフレットです。3ページは、保一小の接続期の「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」です。主に、保育所5歳児後半から小学校入学後1カ月に焦点をあて、いつ頃何をどのようなものを学ぶかを明らかにしたものです。保育所と小学校が協議を重ね作成した物です。4ページは、令和4年度から新設される町独自の教科「ふるさと科」の年間指導計画です。郷土を大切に思う心を育み、将来の朝日町を担う人材を育成するねらいでこのふるさと科を設置したところであります。5～32ページは、教育課程の接続系統表になります。小1から中3までに学ぶべき内容である各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、外国語活動、学校で学ぶべき内容をいつでもどんな目標で学ぶかを示したものです。この教育課程は、教育委員会で取り扱うべき内容ですので、本日の総合教育会議でご承認いただければと思っています。事務局からは以上です。

笹原町長： だたいまの事務局からの説明に対して、校長先生方よりご意見を賜りたいと思います。代表して四杉校長先生お願いします。

四杉校長： 資料の冒頭の内容についてですが、これまでの小中一貫教育をさらに発展させ、保育教育を合わせた形で12年間にわたる学びの継続を目指していくことは非常に有意義なことであると思っております。少子高齢化の進む朝日町ではありますが、これからの新しい時代に朝日町らしい教育の姿、教育は大切であるという基礎づくりということについて12年間に渡るものを示していく、そういったことが、今まで担当してきたそれぞれの教員、保育士の意識を継続的に変えていくものであると思っております。特に、3ページの「アプローチカリキュラム」、小学校に入ってから「スタートカリキュラム」、新しく保育所から小学校へ入学するという大きな節目、この節目の時期にこういった形で非常に円滑な接続が出来れば非常に有効であ

と思っています。保育所、幼稚園を含めた形の一貫教育というのはなかなか見られませんが、朝日町のこれまでやってきた実績を踏まえた朝日町らしさを発揮できるような取り組みだと思います。

笹原町長： 四杉校長先生ありがとうございました。昨年、保小中一貫をと踏み出して、1年が過ぎ、令和4年から始めるという中で、今日は大事なご意見を伺う場であると思っています。教育委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。最初に、小澤委員をお願いします。

小澤委員： 保育所から中学生まで切れ目のないカリキュラムでひとりひとりがギャップを持たないような仕組み作りを先生方はよく考え抜かれて作られたなと思っています。この各教育課程の系統表は素晴らしい内容ではないかと思っています。このような切れ目のない形でやっていただければ、子ども達もつまづくことが少ないのではないかという感想を持っています。また、来年度からの初めてのスタートですので、見直しとかもあるかと思いますがスムーズな形で検証をできればと思います。

笹原町長： ありがとうございます。河村委員をお願いします。

河村委員： 系統表の話があり、接続という言葉が使われた。系統表というのは接続系統表なんだなと思いました。保育所あるいは小学校、中学校と進むにしたがって、急に環境が変わっていく。環境が変わる場所を負担なく児童が受け止める。また、先生方も違和感なく子ども達の指導が出来る、そういうスロープ的なカリキュラムをもって進めていくことを考えると、接続ということは一番大事だと思います。お互いにハンデを感じながら生活するのが一番ストレスになる、安心感を持って生活をしていく場が本来の教育の場ではないかと思っています。

笹原町長： ありがとうございます。コケシュ委員をお願いします。

コケシュ委員： 接続ということで、教員が小学校、中学校乗り入れで教えることは、子ども達も先生も保育士もお互い小学校、中学校の入学前に知り合うことで、子ども達が入学時に安心感などでスムーズになり、教育の場がしっかりと学んでいける場としての土台が出来る、そういったことが、保小中一貫によってできるのかなと、そこがいいと思いました。新設される「ふるさと科」で、今までも子ども達はいろんな体験をさせてもらっていますが、新しく始める体験や新しく着任された先生方が初めてする中で、先生に負担にならない仕組みがあるのか聞きたいと思いました。

上田指導主事：「ふるさと科」のスタート時には不安を感じる先生方がいるかもしれませんが、大事にしたいのが、地域の力をお借りするということです。学校の教員だけでは教えきれないことがあると思うが、町には子ども達の為に何かしたいという方々が沢山いることがわかりました。その方々の力を借りて「ふるさと科」を進めていければと思っています。今は年間指導計画が作成されていますが、やがて、子ども主体の活動となることを願い、PDCAサイクルを回しながら検討を進めていきたいと考えています。

笹原町長： 石坂委員をお願いします。

石坂委員： 保小中一貫教育は、小1プロブレム、中1ギャップという課題を直視して、ジョイント期間の設定をしたり、教員の乗り入れ指導、保育所学校間の垣根を越えた交流が行われてきています。準備チームが検討した「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」、「教育課程接続表」の作成は教員の乗り入れ指導の試験的实施の結果を踏まえた具体的で効果的な取り組みになっている。乗り入れ指導により、中学校の先生が小学生を教えた時に小学校でのつまづきが分かった。また、小学校はきめ細やかに教えるが中学校は一斉指導であり、教育指導にもギャップがある。このような試験的实施の結果をふまえた具体的な取り組みを反映してある。こういったことが、どんどん教育環境の変化で変わりますので、PDCAサイクルによって見直していけばどんどん進化していくことが期待できる。この取り組みは全国に誇れる素晴らしい取り組みだと感じている。「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」の説明をお聞かせ願いたい。

上田指導主事： アプローチカリキュラムは、幼児期5歳児後期から小学校への接続にむけたものです。保育所では、幼児期の終りまでに育てて欲しい姿として10の姿をあげています。この姿を富山県では「自分づくり」、「かかわりづくり」、「学びの基礎づくり」として割り振っています。この力を育むために朝日町の保育所では、表のように指導をしています。保育士が、このように明確な狙いを持って、小学校への接続を考えているということが大切なことです。保育所、小学校、保護者でお互いに交流や情報交換をする場もあります。子ども、保護者、教員、保育士にとっても接続がここで明確にされています。小学校入学後、この育った姿がどのように各教科に結び付いていくかを示したのがスタートカリキュラムになります。特に

重要な4月、5月前半までのものが書いてあります。各教科を通して安心感を持って、人間関係を築くこと、学びの基礎、効果的な学習、こういうものを小学校の入学時に行います。一番大切なことは保育士や小学校教員が、これを頭に入れて保育活動、教育活動を行うということです。まさにこの9年間の学びを意識した指導をするために保小接続カリキュラム（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）というものがあると認識しています。

笹原町長： 昨年、令和4年度から保小中一貫教育という方針で行こうとした時に、保育現場から中身が分からなかった事もあり戸惑いがあった。住民・子ども課、保育士等とも連携を強化しながらスムーズに令和4年からスタート出来るように伝えておりますので、この1年でしっかり進んでまいりたいと思います。では、ここで令和4年度からの「朝日町型保小中一貫教育」を決定したいと思いますが、ご異議ございませんか。

異議なしの声ありがとうございます。しっかりと今ほど出た意見を踏まえながら、取り組ませていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

それでは、(2)の「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の設立」について、事務局から説明をお願いします。

木村教育長： 新しい時代に求められる学校運営のあり方、持続可能な学校運営ということで説明いたします。今、教員の多忙化解消に向けた取り組みとして求められているのは、先生方が子ども達と向き合える時間を確保することです。学校を取り巻く多くの業務を地域がパートナーとなって学校と一緒に運営を進められないだろうかというテーマを設定しました。県教委発表の直近の4月、5月の超過勤務の時間数は、小学校で約55時間、中学校で64時間になっています。これは定められている45時間という時間をかなり超えている実態です。国の中央教育審議会では、学校及び教師が担う業務の明確化を図りました。働き方改革のきっかけがこの表です。仕訳表を3類系にしています。基本的には学校が担うべき業務（学校の登下校など）、学校の業務だが必ずしも教師が担う必要のない業務（部活動など）、教師の業務だが負担軽減が可能な業務（学校行事など）です。国では、この中教審の答申を受け、部活動改革に動き出しました。現在、県内で朝日町を含むいくつかの市町で、部活動の地域移行を進めています。

全国では、令和5年度から段階的に部活動を学校から地域に移行していくというプランが発表されており、朝日町が率先して進めているところです。

朝日町の教育改革は、ICT教育（オンライン教育、デジタル教科書の活用など）、保小中一貫教育、それから教員の働き方改革の3本柱を中心に進めてきました。「ふるさと科」、部活動のコミュニティクラブの新設をしたところです。急激な社会変化により学校を取り巻く業務が大変増えてきて、どうにかしないと学校が持たないという状況が全国的な状況です。朝日町では、地域がパートナーとなって、地域と学校で学校運営をすることが出来ないだろうかと考えました。先程の仕訳表にあった、学校以外が担うべきというものを、地域の方々に担ってもらい、今までの連携よりもさらに進めて、主体的に進めてもらう。これを国の制度を活用して、地域学校協働本部という枠の中に入れました。一方、学校においてもそれと連携する仕組みが必要になります。保小中一貫教育を令和4年度から行うにあたって、規則上必ず置かなければならないのが、学校運営協議会です。学校運営協議会というのは法律で決まっています、任意設置からより強い努力義務に法改正されました。やがて、どの学校にも置かなければならなくなります。学校運営協議会を設置した学校をコミュニティ・スクールと呼ぶこととなります。朝日町型コミュニティ・スクールのモデル構想、つまり地域とともにある学校づくりというプランの中でこうした学校運営を進めていきたいと考えています。地域と学校の連携協働体制構築事業という国の制度を活用することによって、いろいろサポートをしてもらえる。コミュニティ・スクールを活用しながら学校運営をサポートできる体制を組んでいきたい。具体的には、学校の中に学校運営協議会を新設します。その協議会の中で、学校の運営に関して評価検証を行う約15人程度の委員会を設けます。学校運営協議会の構成は、国の方である程度決まっているが、公民館代表、PTA代表、地域学校協働活動推進員、有識者、保育所長、小学校長、町教委関係を構成メンバーにして学校運営協議会を構成したいと思っています。学校と地域が両輪で連携しながら学校の運営を行い、保小中一貫教育でありました、めざす子ども像を実現するために学校だけではなく、地域と一体になって、これを実現していこうという考え方です。この学校と地域を両輪で連携協働しながら進めていくものを「朝日町型地域パートナー学校支援モデル」としました。地域の方々がパートナ

一となって学校を支援するモデルということです。学校の運営の一部を担っていただくという形です。

文科省の調査のコミュニティ・スクールの成果のアンケートでは、「地域が学校に協力的になった」が8割を超え、「地域と連携した取り組みが行えるようになった」が8割くらい、「保護者の理解が深まった」が7割以上あります。このようにコミュニティ・スクールは成果があると思っています。令和2年度の文科省の調査によると、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部を一体的に実施している自治体は、富山県にはありません。朝日町は自治体としてこれを進めていきます。また11月6日に全国コミュニティ・スクール研究大会で朝日町の取り組みの発表をすることになりました。

笹原町長： ただいま事務局から令和4年度から始まる「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の設立」（案）についての説明がありました。まず、オブザーバーの校長先生からご意見をお願いいたします。初めに、さみさと小学校四杉校長先生お願いします。

四杉校長： 今まで地域力を借りて、教育活動を進めてきました。地域には非常に多くの良い教材や人材が教育資源として存在していると認識しています。朝日町では、今提案があったような仕組みや組織的に計画的に進めていくといったようなことはこれまであまりやってこなかった。それぞれの学校で従来通りの形で進めていくことが多かった。学校の庶務的なことが多かったが、そこを地域の方に参画していただき、学校がやりたいことを地域の方も一緒になって、学校づくりに参画していただく。そういったような組織作り仕組みというものを改めて見まして、朝日町にふさわしい形のものではないかと考えています。そのためには、学校にこれまで非常に協力的であった方々を組織的に中核に据えながら一層推進していただくような、リーダーシップも取っていただきながら、学校は積極的にいろんな情報をお知らせしながら進めていく必要もあると感じています。朝日町が進めている3つの柱をより積極的に進めていくうえでは、非常に有効な手段ではないかと思っています。

笹原町長： ありがとうございます。あさひ野小学校水島校長先生お願いします。

水島校長： 保小中一貫教育は、子どもたちにとって非常に大きなメリットがあると考えています。コミュニティ・スクール、地域学校協働活動は、教員にと

って非常に大きなメリットがあると考えます。持続可能な学校運営を考えますと、教員の仕事が本来の魅力あるものでなければならぬと常々考えています。しかし、今の学校には教員が最も大切にすべき子どもと向き合う時間を確保するのが難しいという現状があります。この地域学校協働活動が進められていけば、そのあたりの課題も解決されていくのではないかと期待しています。学校ではこれまでも働き方改革のため、自分たちの業務の見直しを図ってきました。出来ることからどんどん取り組んできており、ある程度の改善はできているものの、なかなか改革というところには至っていません。今回のコミュニティ・スクール、地域学校協働活動が進めば教員の実質的な負担はもちろん減りますし、一緒に子どもたちの事、教育活動の事を考えてくださるパートナーがいるというだけで、教員の精神的な部分の負担感もかなり軽減できるのではないかと、大いに期待しているところであります。

笹原町長： ありがとうございます。朝日中学校梅澤校長先生お願いします。

梅澤校長： 中学校では、すでに、中学3年生を中心に受験対策ということで放課後学習という形で、町内教員OB・OGや町内出身の大学生に講師として勉強を見てもらっている。例年は9月からですが、昨年度はコロナ禍ということで6月から実施させていただいた。朝日町型部活動コミュニティクラブは、今年4月から実施しています。大きなメリットは、働き方改革もあるが、最近の教員はスポーツ経験をしている方は多くない。実際に運動部の顧問になっても経験がなく指導が出来ないことがある。地域のスポーツ競技団体から指導者を招くことで、指導力不足の解消、負担の解消になっている。現在は平日に1回、土日に1回指導者に練習を見ていただいているが、土日に部活動をしないことは、先生方の負担を大きく軽減している一つになっています。部活動の超過勤務の時間についても、削減されているということが実際にあります。中学校では、地域と連携している行事もありまして、朝日中学校伝統の登山ですが、例年実施の時に地域サポーターとして、多くの方に講師として来ていただいています。14歳の挑戦では、事業所での体験活動があります。これも地域の事業所の方にお越し、活動を1週間行う形になっている。この2つの活動も地域学校協働本部に講師の派遣や事業所への依頼をお願いすることができれば、教員の事務的な負担もかなり減らすことができます。地域学校協働本部で、学校現場以

上に地域のことを良く分かっている方々より、よい活動場所であったり、事業所を紹介してもらったりできます。また、こういう活動を通してより朝日町の良さを学ぶ機会になるかと思えます。先程のふるさと科の話で、地域を愛する子ども達を育成するという意味においても、地域と一体化、連携することにより、より子ども達が朝日町の良さを知る機会が広がるという風にも受け止められますので、大いに期待できると考えています。

笹原町長： ありがとうございます。私自身、地域の方々が部活動の支援に非常に協力的だったということで、想像よりも驚いているのが現実です。お聞きしたいのは、PTAの関わり方が非常に重要なポイントではないかという中で、PTAへの説明の状況やこういった取り組みを現段階でどういった捉え方をしておられる様子ですか？

上田指導主事： 昨年度、各学校をまわりPTAの方々に説明をしました。学校運営協議会や地域学校協働活動については、保護者にとっては大きく変わることはありません。その辺の安心感については説明できたと思っています。昨年度から、保小中一貫教育準備委員会を今まで4回行っています。その際にも地域の方、PTAの方、町PTA連絡協議会会長にも参加いただき、各学校で周知をしていただいているところです。

笹原町長： 当然、保護者としてこの意味合いを理解していただかないとそれは問題になるのかなと思いますし、今回承認を得れば、今月末のタウンミーティングで説明をしていただけると思っているが、教育委員会、学校側と連携をしていただければありがたい。次に、教育委員の小澤委員お願いします。

小澤委員： このコミュニティ・スクールの議論を何回か拝見させていただいていますが、今までいろんな形で個々に関わりはあったのですが、地域学校協働本部というまとまった形になって、学校運営協議会と合わせてコミュニティ・スクールを形成していく形は、理想的になって形づくっていくのではないかと思います。これが教員の多忙化解消に向けた取り組みに進んでいければいいのではないかと思っている。私の時代は、放課後いろんな形で先生が個別に付き合ってくれた記憶があるが、今の学校の先生方は、あまりにも多忙で次から次に新しい事項が発生してきて、なかなか児童と向き合えないと先生方はおっしゃっている。多忙化解消が少しでも実現していればこのコミュニティ・スクールのあり方の一番のポイントになるのではないかと思います。

笹原町長： ありがとうございます。河村委員お願いします。

河村委員： サポートということで今まで部活動を支える地域の方も実際おられたが学校の先生と地域のサポートの方との連携ということをいかに充実させるか細かく綿密に打ち合わせできるか、そういったことも大事なことだと思います。他の地域では部活動関係でサポートを一生懸命やっておられるということを聞くが、種類を分けて4項目のサポート、一つのことだけを中心にサポートしていただくだけではなくて、こういう風に種類を分けることによって、地域の方がいかに学校との関わりを深くかかわってもらえるか、それを深めていく意味でもこういうことは大切なのではないかと思います。子ども達にとってやはり何が大事かということ、触れ合う中において、人とのコミュニケーションの中で人の心を感じるということそういうものが大切でないかと思います。

笹原町長： 河村委員から指摘のあった、サポートされる方々や教育委員会との関わり、円滑に活かせるためになにか今現在取り組んでいることややらなければならないことはありますか。

上田指導主事： 現在地域学校協働活動推進員の候補に挙がっている方にも参画いただいています。サポートについてですが、部活動については調整会議を今年度2回行っており、連絡調整は上手くいっていると思います。この先、推進員を中心に、こういう活動を集約したり、評価したり反省する場を設けていきたいと考えています。

笹原町長： 石坂委員お願いします。

石坂委員： 大変明確かつ大きな目標を持った計画であると思います。それを非常に緻密に体系的に整理された取り組みとして出されていることに本当に素晴らしいと感じました。そもそも、朝日町はふるさとづくりや人づくりといった町民憲章の精神のもとに総合計画や教育大綱というものが策定されていて、これまでも地域や保護者の方は学校を応援してきております。ただ、昨今のように少子高齢化や教員不足などの厳しい教育環境の中ではオール朝日町で子ども達を育てていくこと、こういうことを考えるならば今後地域というのは学校への応援とか支援だけでなく連携協働といったようないわゆるパートナーとしてより積極的主体的に参画することが求められていると思います。こうした思いを地域と学校が共有して取り組む形がまさにコミュニティ・スクールの設置、あるいは地域学校協働活動本部の

設置でありまして、これは保小中一貫教育の基盤のみならず、学校を核とした地域づくり、学びによる地域創生といってもいいくらい、そういったことを目指すことにも繋がるのではないかと思います。ただ、スタート段階やこれを軌道に乗せていくということは相当の馬力がいると思います。最も大事なものは、担い手となってくる人、地域学校協働活動推進員の確保だと思っています。準備されている段階でのいろんなご意見を聞きますと、子どもの為にお手伝いをしたいという町民が多くいるという再発見があったと聞いている。また、改正社会教育法がありますけれどもそこでこの推進員の立ち位置を明確にして町教育委員会が委嘱していくということで責任と信頼感が出てまいります。そういったことでこの推進員の発掘育成を計画的に進めて研修とか情報交換会を積み重ねていって信頼関係を構築していくことが大事だろうと思います。働き方改革との関係の懸念もありますけれども、オール朝日町での人材育成、地域創生という大きな目標あるいは中長期的な視点からは様々な懸念や不安ということを考慮してもはるかにメリットが大きいものだと考えています。まず一步踏み出すことが大事だと思っています。

笹原町長： ありがとうございます。石坂委員が言われたように、マンパワーが必要だということ、担い手もしかりなのですが、昨年の4月も、マンパワーがあったからこそ朝日町はオンラインに踏み切れたと思っています。朝日町は規模が小さいから出来たと言われたが、いやそうではない実際にそれを支援をしてくれたメンバーが多くいたから、そして、PTAの皆さんの理解があったからこそオンライン授業あるいはデジタル教科書、ICT支援員というマンパワーがあったからこそ出来たのですよと、他市町村から聞かれた時にはそういったことを言っていました。これを進めるにあたって最初のスタートと地域の皆様方の理解とそういった人が必要になってくると思っている。そこら辺は十二分に事務局はしっかりしていただきたいと思っています。よろしくお願いします。コケシュ委員お願いします。

コケシュ委員： 私自身朝日町に来て十数年になるのですが、住み始めてから子育てが始まったのですが、子育ての環境として町民や地域の方が協力的ですごく関わってくださって、子ども達にとって安心安全なほっとして生活できるという町の印象があります。教育の場にも協力したいという地域の方が多くいらっしゃるというのが、暮らしの場でもすごく安心感がありまし

たが、教育の場も地域の方が主体的に関わってくださるというので、子ども達にとって豊かな充実した学びの場になるというのがすごくいい影響、刺激になると思ってすごく期待しています。

笹原町長： 何か気付いたこと、提言したいことがありますでしょうか。オブザーバーの先生方、忌憚のないご意見を賜ればと思います。今回の部活動の支援もそうだが、そういった保護者が地域の方が関わっていくということが非常に大きなプラス要素にそしてつながりが奥深いものになっていくかなと思っています。町教育委員会が進めていますこの形が、いろんな方々に参画をしていただいてそしていろんな立場で、オール朝日町で進めていくことがより良いものになっていくと思っています。今後、各々の立場での連携がキーワードだと思っていますので、ぜひご理解、連携をしていってもらえればと思います。他に何かございませんか。無いようでしたら、ただいまの協議を持ちまして令和4年度からの「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の設立」を決定したいと思いますが、ご異議ございせんか。

異議なしの声ありがとうございました。資料の表紙の（案）をお取りください。それでは、令和4年度からのスタートに向けて、教育委員会と各学校が連携して準備を進めていただきたいと思います。

次に（3）の「その他」に入りたいと思います。事務局からお願いします。

小杉局長： その他の資料として、資料3で住民・子ども課から「朝日町の健全育成事業について」という資料があります。時間の都合もありまして、今日は説明を割愛させていただきますが、参考として後ほどお目通しくださいますようお願いいたします。以上です。

笹原町長： それでは、本日予定しておりました日程はすべて終了いたしました。以降は、事務局をお願いしたいと思います。

小杉局長： 町長、教育委員の皆様、オブザーバーの校長先生方、ご審議ご意見賜りまして、ありがとうございました。それでは、閉会にあたりまして、朝日町教育委員会木村教育長からご挨拶申し上げます。

木村教育長： 皆さんお疲れさまでした。大変貴重なご意見を賜りまして、今後の活用にししたいと思います。今、朝日町に限らず教員の長時間勤務が大変問題となっており、なかなか先生方がゆとりを持って子ども達と接する事が

出来ない状況であり、教員の負担軽減、教員の働き方改革が喫緊の課題となっております。そうしたことから、今回のコンセプトは「新しい時代に求められる持続可能な学校運営のあり方」というものを、テーマにこのような新しいモデルを提案させていただいたところです。私どもは、学校だけでは業務を担えない状況になっております。あれもこれもでなく、新しい時代、持続可能な学校運営というものはどうあるべきかと考えた時に、やはり学校の先生たちだけではなくて、地域の力を借りて一体となって学校を運営する仕組みをこの機会に作っていきたいと考えています。そこで、「地域パートナー学校支援モデル」とし、提案させていただいたところです。今ほど、来年度から保小中一貫教育にあわせて「地域パートナー学校支援モデル」もご承認いただきましたので、この方針に従って、今後、規則改正など詳細を詰めていきたいと思っておりますので、また、今後ともご協力をよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

小杉局長：　ありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度第1回朝日町総合教育会議を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。